

昭和村人物伝(2)

林 貞次郎翁

― 赤城山北面の開発先駆者―
昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



林貞次郎翁

今回は「利根沼田の人物伝」(高山正著)に登場する、昭和村で活躍した人物の中から林貞次郎翁を紹介する。

貞次郎は、天保十一年(一八四〇)に林惣右衛門の次男として旧赤城根村の生越に生まれた。十四歳で父の代わりに名主役を見事やつてのけるといふ非凡な才能を見せた。

安政六年、二十歳の時に日本が開港貿易を許された横浜港に向いて仕事を始めたが、その後、村に戻り故郷の発展に力を注いだ。その先進的な取り組みの数々を紹介しよう。

まず、植林事業を積極的に進め、村有林の確保に努めた。その一方で、利根地区における最初の乳

牛飼育を行ったといわれており、明治十四年に根利牧社を開いた。同十八年には、青森県の七戸から優秀な馬を購入して品種改良を行い、最盛期には五十三頭の牛馬を飼育するほどになった。

次に、実現はしなかったものの、干ばつ地帯である赤城北面の大地を耕すため、赤城大沼の水をトンネルなどで導く用水を計画した。この計画は後に一部姿を変え、昭和六十年に赤城西麓土地改良事業として実現した。

また、子の助次郎と力を合わせて養蚕業にも取り組んだ。明治中期には科学的養蚕法を取り入れ、応気社という組合を起こした。貞次郎は製糸業にも目を向け、利根郡初といわれる沼田製糸合資会社を立ち上げ、推されて社長に就任している。

さらに、農業振興だけでなく教育にも力を入れ、学校設備の充実や教員の確保などに務めた。明治三十九年には、村立図書館の前身ともいえる新聞雑誌縦覧所を設け、村の人々に読書の機会を与えるなど、人づくりに大きな功績を残している。

こうした多くの業績が国などに認められ、数々の賞を授与された。八十二歳の生涯であった。

その他の出典 わが赤城根村



地域包括支援センターだより

ケア輸送サービス事業のお知らせ

ケア輸送サービスでは、昭和村に住所がある要介護や一人暮らしの高齢者に対し、日常的な外出や通院、送迎などの移動手段をサポートしています。住み慣れた昭和村でずっと生活していけるようサポートしている当サービスを利用しませんか。

◆利用できる方

おおむね65才以上の、ひとり暮らしまたは高齢者のみの世帯で公共交通機関の利用が困難な方

◆利用可能なサービス

- ・ 医療機関への通院または入退院
- ・ 役場や銀行など、公共機関への送迎
- ・ 村または公的機関の主催する行事(選挙なども可)に参加するための送迎

◆利用料

- ・ 30分 2,490円(村の助成対象者は250円)
- ・ 60分 4,980円(村の助成対象者は500円)

ケア輸送サービス事業をご利用になりたい方は
昭和村地域包括支援センターまで連絡ください



ケア輸送サービス用の車両



乗り降りが楽に行えます



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

